

環境汚染産業世界ランキング

繊維・アパレル業界：第 **2** 位

ファッション業界は、500万人の年間使用料に相当する930億m³の水を使用し、約50万トンのマイクロプラスチックファイバーを海洋投棄しているといわれています。また、CO₂排出量は国際航空業界と海運業界を足した排出量を上回ります。さらに、洋服の大量生産・大量廃棄が、環境に悪影響をもたらしています。

洋服を手放す時の手段(国内)

可燃ごみ・不燃ごみとして廃棄：**68** %

洋服を手放す手段として、可燃ごみ・不燃ごみとして廃棄する割合が圧倒的に多くなっています。そのごみの大多数が焼却・埋め立て処分となることで、環境負荷が生じています。ペットボトルやアルミ缶などに比べて、衣類のリサイクルやリユースなどの再資源化は、大きく後れを取っています。

ファッションが環境に悪いて、ホント？

リーズナブルな価格でもトレンド感のあるおしゃれな洋服が手に入るようになった現在、

ファッション業界の大量生産・大量廃棄というサイクルが当たり前になっています。

「安いから捨ててもいい」「トレンドが過ぎたら捨ててしまおう」……そんなふうに洋服と付き合っていないですか？

「洋服は使い捨てるもの」という考え方が地球環境に深刻な問題を引き起こしています。



大量生産

大量廃棄

環境破壊

1人当たり(年間平均)の衣服の消費・利用状況(国内)

着用されない服：**25** 枚

1年間に1回も着用されない服が25枚もあるのにもかかわらず、手放す枚数(約12枚)よりも購入枚数(約18枚)が上回っています。洋服の低価格化や流行の短サイクル化が衝動買いを呼んでいると推測されます。

衣類の供給と需要のミスマッチ(国内)

供給量と購入量のギャップ：約 **15** 億着

国内で供給されている衣類は、すべてが購入されているわけではありません。購入されなかった衣類がリサイクルされず、そのまま廃棄されるケースもあります。ファッションを供給する側が、この問題を深刻に受け止め、改善していくことが求められます。

「環境汚染産業世界ランキング」は国連貿易開発会議(UNCTAD)2019年調べ
「衣類の供給と需要のミスマッチ」は(株)小島ファッションマーケティング2019年調べ
その他は環境省「ファッションと環境」調査結果(2020年12月～2021年3月)より